

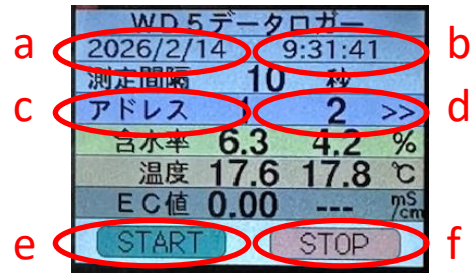
WD5 データロガー 説明書

このアプリは
土壌水分センサー WD5-WET-SDI や WD5-WT-SDIを
SDI-12変換ユニットにてM5Stack Core2 に接続して
使用します。
開発環境 Arduino IDE 2.3.6 以降を使用し
ボード: M5Core2を指定します。



操作:

画面をタッチすることで操作します。



計測開始停止

e をタッチして開始、f で停止です。

停止中の操作:

日付の変更

停止中に a をタッチして日付を変更しOKをタッチします。

時刻、周期の変更

停止中に b をタッチして時刻を変更しOKをタッチします。
計測周期も変更できます。

アドレス変更

停止中に c をタッチして変更したいアドレスを選択します。
その後変更するアドレスに設定し、OKをタッチします。
各センサーはそれぞれ別のアドレスにしてください。

動作中の操作:

センサーが2台以上接続されている場合
画面には2つのアドレスのデータが表示されます。
毎回全センサーで計測は行いますが表示は2つの
アドレスのみ行います。

他のアドレスのデータを見たい場合

動作中に c をタッチして見たいアドレスをタッチします。
そのアドレスのデータは右側に表示されます。
それまで右側に表示されていたデータは左側に移ります。
黄色のプログレスバーが出ている間だけタッチ操作に
反応します。

順次他のアドレスに切り替えて見たい場合

動作中に d をタッチします。
右側に新しいアドレスのデータが表示されます。
それまで右側に表示されていたデータは左側に移ります。

動作:

1. 日時設定

ソースコードでWiFiのSSIDとパスワードを設定します。
(スマホのテザリングでもかまいません)
Web接続して時刻を取得し内蔵のRTCを設定します。
WiFi接続ができない場合RTCの時刻を使用します。

2. センサースキャン

起動時センサーが何台接続されているかを確認します。

3. 自動アドレス変更

スキャンの際、アドレスが0(ゼロ)のセンサーを検出すると自動的に最大アドレス+1のアドレスに変更します。
そのため、新しいセンサーを接続してからリセットボタンを押す操作を繰り返すだけで多数のセンサーのアドレス変更の操作をせずに測定を始めることができます。

4. 測定

測定間隔の時間ごとに毎回全センサーで測定を行います。
本体の表示はそのうちの2つのみ行います。

5. マイクロSDカード

32GB 以下でFAT32でフォーマットしてください。
全センサーのデータをマイクロSDカードに
1分ごとにCSVで保存します。

6. センサー種類

WD5-WET-SDI および WD5-WT-SDI の2種類の
センサーを混在して接続可能です。